
ペットボトル

坤 漸略

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ペットボトル

【Nコード】

N7191S

【作者名】

坤 漸略

【あらすじ】

キャンプいくけど、事件は起こらない。
あしからず

(前書き)

キャラ崩壊？気にしない！

それよりいまいちカップリングの表記の仕方がわかりません・・・
誰か教えてください

今日は三連休の頭の土曜日。外は清々しいほどの快晴。例にもよって楽しいキャンプに行くはずだったのだが・・・

「しかし、ツイてないわね・・・」

「こんな時に車パンクしちゃうなんて」

「少しぐらいガマンしろよ」

「コナン君は推理小説読みたいからそうやって気にしないんですよ？」

「・・・いいじゃねーか、別に」

「休日に、しかも、車の中で読書なんて不健康ね」

「おめーにいわれたくねーよ」

通りかかった人と一緒に博士は近くのガソリンスタンドまで乗せて行ってもらったことになった。その間に元太は光彦を半ば強引にトイレに案内させた。残った三人は車の中で留守番だ。

「・・・ほんと、元太は騒がしーな」

「コナン君も本読んでないでお話しよーよ」

ねえねえという感じで歩美は本を読んでいるコナンに話しかける。

全くほんとこの子たちは忙しいわね。いつもなんでも楽しそう。

まあ、何故か殺人事件でもテンションが変わらないのが少し不思議だけど。工藤君もよくあの子たちと付き合えるわね。確かに、悪い子たちじゃないけど、やっぱり接していると疲れるわ。優しいわね、呆れるくらい・・・子供たちだけじゃなくてあなたを小さくした原因の私まで会話してくれるし、時には命投げ出して私を助けてくれることもしばしば。憎しみとか怒りとか分らないのかしら・・・ほんと、なんで・・・

「気持ちワリイな。灰原。ずっと人の顔ジロジロ見やがって」

「・・・自意識過剰なんじゃない、江戸川君。勘違いもいいところじゃない？」

「やけに不機嫌だな。また静電気にでもいらついてんのか？」

「違うわよ・・・暑い車内で女の子に水もくれない自称名探偵に気がたっただけよ。」

「ん？水ならここにあるぞ」

コナンはバックから水の入ったペットボトルを取り出して哀に手渡した。

まさか本当にくれるなんてね・・・ていうか少しくらい私の気持ち察しようとしなにかしら。まあ、でも・・・水くれるのはありがたいけど・・・

哀はペットボトルのフタをひねろうとすると、隣から手が伸びた。

「ごめん、哀ちゃん。私も喉乾いたから飲んでいい？」

「・・・悪いわね、吉田さん。今とっても喉、カラカラなの。それとも何かこれが気に入っているのかしら？」

哀は柄にもなく意地悪な質問をした。歩美は少しためらって、

「だって、歩美、コナン君のペットボトル欲しいだもん!!」

なんか少し言葉が足りない気がするがここまでストレートに言う歩美にこちらが赤面してしまう。

「そんなにお前ら喉渴いてんだったら、俺の飲みかけだけでもう一本あるぞ」

「「え・・・」」

これって・・・もしかして・・・

「仕方ないわね・・・吉田さん、こっちあげるわ」

「ずるーい！歩美だってそっち欲しいもん!!!!」

「でも、こっちのほうが量多いじゃない」

「・・・哀ちゃん、分かってるくせに・・・」

「何が分かってるって言うの？」

（後書き）

感想ください！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7191s/>

ペットボトル

2011年10月8日21時34分発行